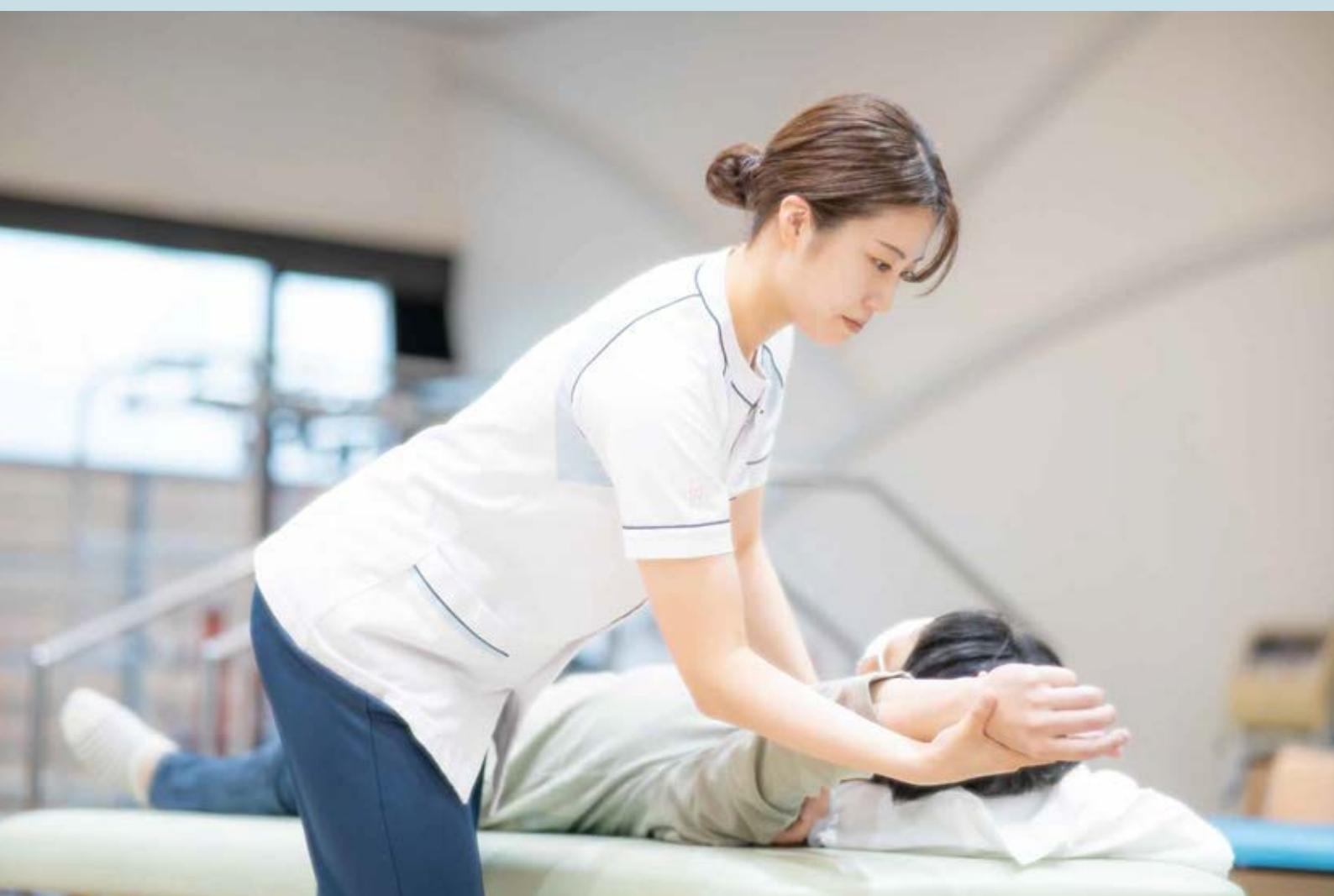


桜ふわり

S a k u r a F u w a r i

2024
summer
Vol.27



<表紙の写真>

理学療法士

桜十字病院のリハビリテーションでは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、総勢 200 名を越えるスタッフが在籍しており、日々患者さまの機能回復に取り組んでいます。

詳細記事→P06へ

4月新入職
新入職医師ご挨拶

外来紹介
糖尿病内科

**桜十字の
リハビリテーション**

◎クチタべ
**口から食べるプロジェクト
10周年記念感謝祭**

- ・桜十字のサークル活動
- ・NEWS TOPICS
- ・協力医療機関の医師紹介
- ・地域連携室からのご案内

新入職医師ごあいさつ



特別顧問
竹島 秀雄
専門
脳神経外科

【経歴】

宮崎大学医学部 名誉教授
宮崎大学 医学科長
宮崎大学医学部附属病院 副病院長・医療安全管理部長
熊本大学大学院医学薬学研究部 助教授
テキサス大学 MD アンダーソン癌センター客員研究員
The Best Doctor in Japan 2010-2023
Doctor of Doctors Network 優秀臨床医 2020-2023
医学博士

【学会活動】

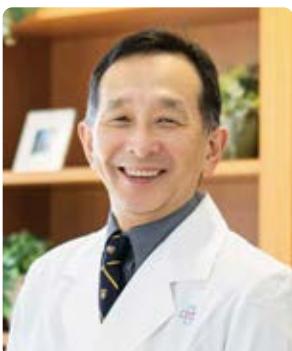
社団法人日本脳神経外科学会 代議員(評議員)
NPO 法人日本脳腫瘍学会 名誉会員
日本脳腫瘍病理学会 常任理事・名誉会員
欧州脳腫瘍学会 (EANO) など

みなさまこんにちは。私は、4月より特別顧問の職を拝命して、桜十字病院に入職した脳神経外科の竹島といいます。これまで直近の18年間、宮崎大学医学部の脳神経外科学講座教授として勤務しておりましたが、定年退官を機に故郷熊本の医療に貢献したいと考え、戻って参りました。倉津院長は私もかつて所属した熊本大学医学部脳神経外科講座の大先輩に当たります。

これまで脳腫瘍の手術を中心に、最新の医療機器を用いた急性期医療の現場での活動が多かったのですが、今後は疾病の予防や早期発見のための健診、治験の推進あるいは慢性期の患者さまへの総合的なケアなどを含め活動の幅を広げていきたいと考えています。

また、私もう1つのライフワークとして、機能的脳神経外科といって命には直接危険は及ばないものの（三叉神経痛や顔面痙攣など）日常生活で支障をきたすような病気の手術・治療にも数多く関わってきましたので、ご希望がありましたらご相談下さい。

また、今後は専門性を生かして頭痛やてんかん、認知症などの診療も行なっていきたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。



伊藤 彰彦
専門
循環器内科

【経歴】

熊本赤十字病院 第二循環器内科 部長
日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本循環器学会専門医
日本高血圧学会専門医
日本心血管インターベンション学会認定医・専門医
心臓リハビリテーション指導士
埋込型補助人工心臓管理医
医学博士

【所属学会】

日本心臓リハビリテーション学会
日本心不全学会
日本緩和医療学会 など

この度入職しました伊藤と申します。

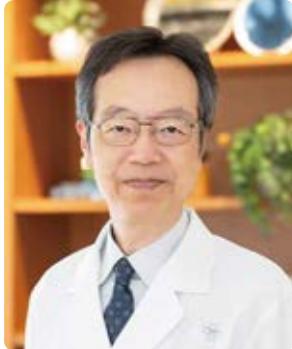
専門は循環器内科で、今年3月までは熊本赤十字病院で働いていました。

急性期疾患ばかりしていましたので、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれません、患者さまのために頑張っていこうと考えております。

また、ご家族に対しても、桜十字病院でよかったと思って頂けるようになにができるかを常に考えていきたいと思っております。

今後ともよろしくお願ひいたします。





久米 修一

専門
外科

【経歴】

高千穂町国民健康保険病院 病院長
日本外科学会 専門医
消化器がん外科治療認定医
日本消化器外科学会 指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
地域包括医療・ケア認定医
乳腺認定医
医学博士

昭和 63 年(1988 年)に熊本大学を卒業して、済生会熊本病院、熊本労災病院、人吉医療センターなどで研修を受けました。多いときは年間 300 例以上の手術に従事してきました。

直近は2015 年から今年の 3 月まで、宮崎県の高千穂町国民健康保険病院に 9 年間、勤務しました。高千穂峡や数々の神社、夜神楽などで有名な観光地です。私も天岩戸神社や天安河原を訪れましたが、神秘的な雰囲気のあるパワースポットでした。

私が赴任した 2015 年の高千穂町の高齢化率(人口に占める 65 歳以上の人の割合)は 38% でしたが、今は 42% を超えています。日本の高齢化問題を先取りしたような地域でした。しかし、周辺にはもっと高齢化率の高い自治体も多くありました。隣の福祉センターの保健師らと共に、検診の結果や住民の保健活動について検討することもありました。

高千穂町病院の前に勤務していた熊本市立植木病院も含めて、長い間、地域医療に携わってきましたので、医療・福祉・保健の連携を行う地域医療に貢献したいと思っています。よろしくお願ひいたします。



今野 俊和

専門
緩和ケア

【経歴】

日本緩和医療学会
阿蘇温泉病院緩和ケア病棟
東京さくら病院緩和ケア病棟
如月福岡クリニック 往診医
井上病院緩和ケア病棟 病棟医長
今野病院緩和ケア病棟 病棟医長
栄光病院 ホスピス勤務
村上華林堂病院外科
福岡大学病院消化器外科 消化器外科
朝倉健生病院外科 一般外科
医学博士

「緩和ケア」と聞いてみなさんのどのようなイメージを持たれるでしょうか?

末期がんの人がいく病棟、もう何も治療できなくなっている病棟と誤解されている方も少なくありません。

緩和ケアとは、身体の痛み、心の痛み、社会的な痛み(今までの仕事ができなくなる、父親や母親としての務めができなくなる、など)、スピリチュアルペイン(将来への希望が持てないこと、人のお世話にならなければいけないことなどによる痛み)を和らげていくためのケアです。

現在では「がんと診断された時から緩和ケア」を行うようになっており、実際治療を続けながら痛みの管理のため、また他の悩ましい症状を和らげるために一時的に入院することも可能です。また昨今問題になっているいわゆる“介護疲れ”ですが、介護をするご家族が一休みしていただくための 1~2 週間程度の入院(レスパイト入院といいます)も可能です。

病気のことだけではなく、その方の考え方、思い、これからどうしていきたいかということが大切になっていきますので、ご本人を含めご家族からもいろいろとお話を伺いできれば幸いです。

食べる 技術 伝える



熊本を「口から食べる」で 日本一幸せな地域に。

口から食べるプロジェクトの10年は、多くの幸せを生み出した10年

桜十字病院が取り組む「口から食べるプロジェクト」が2014年に開始されてから今年で10年を迎えます。地域包括ケア時代に求められる慢性期病院の役割として「口から食べること」を改めて見つめ直し、患者さまやご家族の幸せを追求するために病院全体で立ち上げたプロジェクトです。医師や看護師、歯科衛生士、セラピスト、栄養士、介護職といった多職種でチームを作り、それぞれの専門的見地から患者さまがどうすれば口から食べられるようになるのかを考え、口を動かす訓練や食事の姿勢改善、処方薬の見直しに取り組んできました。当初は、院内の食べられない患者さまをどうか食べられるようにと思い、

スタートしたプロジェクトでしたが、院外で食べられないと判断された患者さんも「クチタベ入院」として受け入れ、再び食べられるようにリハビリテーションを行うようになりました。その結果、口から食べると危険と判断された患者さまのうち、45%以上もの患者さまが入院当日から経口摂食能ができ、そのうち26%の患者さまが3食経口摂食をされ、145件のクチタベ入院のうちの57.9%、実に84件もの患者さまが在宅に復帰することができました。当院では、患者さまに食べる喜びを取り戻していただくとともに、生活の質を向上したいという思いから、より多くの経口摂取を実現できるよう日々取り組んでいます。

プロジェクトの実績 2016 – 2020



クチタベ入院件数

145件



3食経口移行件数

71.0%
(103件)



在宅復帰件数

57.9%
(84件)

□から食べるプロジェクト 10周年

特別講演「いのちの尊厳～食べたいを支える～」

4月24日、桜十字病院で10周年記念講演会を開催。地域の約300名の医療従事者が聴講しました。特別講師として、摂食嚥下リハビリの第一人者でありNHK「仕事の流儀」でも注目を集められた「NPO法人から食べる幸せを守る会」の小山珠美理事長をお招きし、口から食べることの重要性について講演いただきました。講演では、患者さまが絶食状態になると肺に食べ物などの異物が入り込み、誤嚥性肺炎を発症してしまうことを恐れ、医療者側が口から食事をさせてくれなくなる課題を指摘。「食べることをむやみに禁止することは、命の尊厳を逸脱する」と訴え、生命活動の源ともいえる口から食べることの大切さを説かれました。



小山 珠美／看護師 NPO法人 口から食べる幸せを守る会理事長

【経歴】

神奈川県総合リハビリテーション事業団 神奈川リハビリテーション病院

└ 同事業団 厚木看護専門学校 看護第一学科 専任教員

└ 同事業団 七沢リハビリテーション病院脳血管センター 看護師長

└ 同事業団 神奈川リハビリテーション病院 看護師長

愛知県看護協会 認定看護師教育課程「摂食・嚥下障害看護」主任教員

社会医療法人社団 三思会 東名厚木病院

JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院 摂食機能療法室



安田 広樹／桜十字病院 呼吸器内科 口から食べるプロジェクトマネージングドクター



建山 幸／桜十字病院 口から食べるプロジェクト専従看護師

熊本全体を幸せな地域に

「経口摂取は難しいと診断された方でも、口から食べる幸せを取り戻せたことがあります。地域の在宅ケアの現場からのご要望やご意見をいただきながら、さらに技術や知識をプラスアップして、より良いものにしていかなければと思っています。在宅や地域の方々と一緒に『口から食べるプロジェクト』を作り上げていくとともに、熊本全体を“口から食べる”幸せな地域にしていきたいと思います。」

学んだ10年、伝える10年

「これまでの10年間、"口から食べること"について多くのことを学び、チャレンジし、たくさんの患者さまの経口摂取に繋げることができたのは、地域の医療関係者の皆さまのご協力のおかげです。本当にありがとうございます。これからも10年、桜十字病院の役割としてこの地域に口から食べる技術を広めていき、病院も施設も一体となり"熊本を食べられる地域"にしていきたいと思います。」

「口から食べるプロジェクト」とは？



「口から食べるあきらめない」プロジェクト

加齢や脳血管障害などにより摂食嚥下障害となった患者さまが「口から食べる」ことを実現させるため、桜十字病院が2014年から開始したプロジェクトです。

「口から食べる」を実現させるためには、嚥下の問題のみを解決しようとしてもうまくいきません。口の中、覚醒の状態、食べる姿勢や体力、食べる意欲など、全身で「口から食べる」ことができる方向へ向かうことが大切です。そのため、私たちは多職種によるチームを立ち上げ、専門的な立場から患者さまに向き合い「口から食べる」ためのアプローチを行っています。

詳しくは桜十字病院口から食べるプロジェクトwebサイトへ



桜十字のリハビリテーション

リハビリを通じた急性期病院と在宅復帰の確かな橋渡し

私たちはライフスタイルの変化に合わせて考え方行動することで、

患者さまの「くらし」に安心と満足を与えることを目指していきます。

200名を超えるリハスタッフが在籍しており、700m²を誇る広大なリハビリ室で、

患者さまの機能回復に取り組んでいます。

222名のリハスタッフが在籍。2024年4月1日時点



理学療法士
135名



作業療法士
52名



言語聴覚士
33名



歯科衛生士
2名

充実したリハビリマシンで、質の高いリハビリを行います。



パワープレート



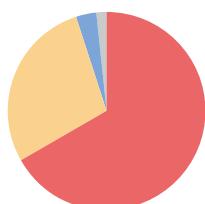
デジタルミラー



コグニバイク

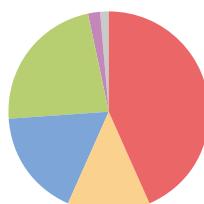
疾患別リハビリの割合 2023年度

回復期病棟



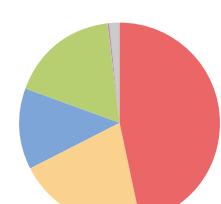
- 脳血管
- 運動器
- 廃用症候群
- 呼吸器
- 心大血管
- 摂食嚥下

一般病棟



- 脳血管
- 運動器
- 廃用症候群
- 呼吸器
- 心大血管
- 摂食嚥下

療養病棟



- 脳血管
- 運動器
- 廃用症候群
- 呼吸器
- 心大血管
- 摂食嚥下

施設基準



疾患別リハ

心大血管疾患リハビリテーション料(1)
脳血管疾患リハビリテーション料(1)
運動器リハビリテーション料(1)
呼吸器リハビリテーション料(1)



回復期病棟

1

入院料 1



365日リハ実施

365days

集中的なリハビリ実施



在宅復帰率

86%

70%以上で施設基準1
(2023年度)

回復期病棟



熊本ウォルターズとコラボ！ウォルさく体操



2023年10月15日に平成中央公園で行われた「ぶちバケろ。元気フェスタ」で初披露。ラジオ・テレビ体操指導者の多胡肇先生と一緒に体操をして頂きました！

生き活き健康教室



桜十字病院で月に一回開催している「生き活き健康教室」で最初の15分程、ウォルさく体操を実施しています。動きをまとめたパンフレットを配布し、パンフレットにはカレンダーも付いているので、日々の体操成果を記録出来ます。

桜十字病院は元気で活力あふれるまちづくりのため
に熊本ウォルターズとタッグを組んでウォルさく体操
を開発しました！

ウォルさく体操は、バスケットボールの動きを取り入れた、誰でも楽しみながらできる介護予防体操です。
プロスポーツの要素が含まれており、老若男女が実
践できる内容になっています。

現在の日本では死亡や入院の原因として、転倒が
常に上位に入ります。ウォルさく体操は、転倒を
防ぐためにバランス能力の向上と運動不足の解消に
重点を置いており、体の軸を安定させ、ぶれにくい
体を作ることで、介護が必要になる原因の一つである
転倒を予防する効果が期待できます。

テレビでも紹介！

2月29日に放送されたTKUのかたらんね「英太郎の心
配せんちゃよか！」のコーナー内でウォルさく体操を取
り上げました！



↑放送された
内容はこちら



いっしょに
たいそう
するぼる



▲ウォルさく体操
YouTube

ウォルさく体操は You Tube でも公開していますのでいつでも
体操ができますよ！運動習慣をつけて健康寿命を延ばしましょう！

糖尿病内科

糖尿病内科担当医

にしだ よしこ
西田 佳子 医師



2021年4月より着任し、糖尿病専門外来を行っております。糖尿病専門外来と言っても糖尿病の患者さまだけではなく、生活習慣病全般、内分泌疾患(特に甲状腺疾患)の診療を行っております。健診で異常を指摘された方や他院で加療中でも血糖管理が不十分な方であったり、知人の紹介などで当院を受診されたりする方がいらっしゃいます。しっかりお話を聞けるように診療は予約制としており、おひとりあたりの診療時間枠を20分としております。いつでもお気軽にご相談ください。

糖尿病について

糖尿病は、1型、2型、その他の特定の機序、疾患によるものに分類されます。その他の中には膵疾患による膵性糖尿病や肝性糖尿病、ステロイド糖尿病など日常の臨床の現場でよく遭遇するものがあります。糖尿病と診断された場合、成因と病態(インスリン依存状態、非依存状態)を評価します。

糖尿病の管理は全身管理

糖尿病の合併症には細小血管症といわれる糖尿病性神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病性腎症があります。また、大血管症といわれる虚血性心疾患、脳血管障害、末梢動脈疾患などがあります。その他の合併症に、歯周病、骨粗鬆症、認知症、悪性腫瘍などがあります。これらの発症予防、早期発見、早期治療を行うためには全身の管理が必要です。

当院で出来る検査(振動覚検査、アキレス腱反射、心拍変動測定、アルブミン尿の検査、頸動脈超音波検査、血圧脈波検査、心臓超音波検査、CT、MRI)を駆使して早期発見に努めています。

食事療法

患者さまに必要なエネルギー量を決めて、腎機能や肝機能を考慮し三大栄養素の割合を決めます。まずは食習慣の把握が大事であり、間違った習慣を変えるだけでも良くなことがあります。管理栄養士による栄養指導は勿論ですが、最近研究が進んでいる時間栄養学に基づいた食事の仕方、食物の代謝に関する話など、診察室においても簡単な食事に関するアドバイスを行っています。



■ 専門 内科・糖尿病内科

■ 経歴 熊本大学医学部附属病院 代謝内科
熊本中央病院
菊池都市医師会立病院
日本赤十字社熊本健康管理センター
熊本循環器科病院

■ 資格 日本国際学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本スポーツ協会公認スポーツドクター



運動療法

糖尿病の運動療法は、有酸素運動とレジスタンス運動を組み合わせて行いますが、個々人で基礎体力やコンディションの違い(膝の状態が悪いなど)があります。高齢者においては、サルコペニアの予防のために筋力をつけることが重要です。

肥満の改善が目的の場合や血糖値の改善が目的など、目的の違いで運動の時間帯が異なったりしますので、その人に合った運動のアドバイスも行っています。

薬物療法

現在、インスリン製剤を含めて10種類あり、病態に合った薬物を選択する必要があります。

■ 経口血糖降下薬

インスリン分泌を促進するものと促進しないものがあります。インスリン分泌を促進する薬剤は、血糖依存性、すなわち血糖値に応じてインスリン分泌を促進する薬剤と、血糖非依存性、すなわち血糖値が高くても低くてもインスリン分泌を促進する薬剤に分けられます。インスリン分泌を促進しない薬剤には、腎臓からのブドウ糖の再吸収を抑制する薬、腸管からのブドウ糖の吸収を遅らせる薬、インスリン抵抗性を改善する薬剤があります。

薬の併用による相乗効果が得られる薬、心腎連関改善作用、臓器保護作用、がんの発症進展抑制作用などが期待されている薬もあります。

■ 注射薬

GLP-1受容体作動薬(GIP/GLP-1受容体作動薬)とインスリン製剤があります。GLP-1受容体作動薬には1日1回投与のもの、週に1回投与のものなど7種類あります。

インスリン製剤の種類も6種類あり、基礎インスリンを補う製剤、食後に分泌される追加インスリンを補う製剤、これらの製剤を配合した製剤があります。これらの中から患者さまに合わせて使用する製剤を選択します。ただし、最終的には患者さまの生活背景に合わせて調節する必要があります。



熊本桜の会

糖尿病を持つ患者さまのための会で、医師、薬剤師、看護師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師でチームを作っています。ほとんどのスタッフが熊本糖尿病療養指導士の資格を持っています。年に4回程度、みなさんで集まって勉強会を開いています。

桜十字の サークル活動

桜十字グループでは、共通の趣味・興味を持つ仲間が集まってサークル活動を行っています。

熊本県内の当グループ各施設に勤務する職員が、部署の垣根を越え親睦を深めたり、運動習慣をつくって健康につなげることに一役買っています。

4月5日(金)、新入社員へ向けたサークル勧誘会を実施！

部員獲得のために各サークルとも魅力と特徴を活かした演出で、今年も大いに盛り上りました！



現在、認定されたサークルは全部で9サークル。その中から、今回は3つのサークルをご紹介します！



アクティ部

各地で開催されるマラソン大会などにみんなで参加することが主な活動のアクティ部。大会前の練習会や大会後には打ち上げなど、“楽しく走って罪悪感なく食べて飲んで仕事も楽しく!!”がコンセプトです。

2/18(日)に開催された熊本城マラソンに7名のメンバーが出走。お揃いのTシャツを作り心をひとつに！スタート前に集合することで緊張がほぐれ、好調なランに繋がりました。6月には玉ねぎリレーマラソンに参加しました！

スポーツケアサークル

昨年設立したスポーツケアサークル。主に、スポーツに対してのケアやテーピング、体幹トレーニングなどを行っています。月に1～2回、平日の業務終了後に活動。主なメンバーの多くはリハビリスタッフですが、事務局の職員も参加しています。スポーツ好きが集まり、テーピングやスポーツケアについての知識やスキルを身につけることができるサークルです。



バスケットボールサークル



熊本ヴォルターズが桜十字の一員となり、ますます盛り上がっているバスケットボールサークル。月1回程度、平日の仕事終わりに活動しています。5/17(金)には熊本ヴォルターズブースターのバスケットボールクラブとの交流会を開催。紅白戦では楽しみながらも熱いゲームを繰り広げました！今後もバスケ好き、ヴォルターズ好き、運動好きに積極的に声をかけ、バスケットボールを通じた交流を広げてまいります！



NEWS TOPICS



桜十字グループ、熊本大学・熊本ヴォルターズと
三者包括連携協定を締結！

桜十字グループは2023年春よりプロバスケットボールチーム『熊本ヴォルターズ』の運営及び健康管理を全面サポートしています。熊本ヴォルターズの躍動が県民の皆さんにとって、健康と元気の源となることを目指した当グループのこういったスポーツ振興の取り組みに対し、熊本大学より『渡鹿体育館』を拠点とした連携協定および共同研究の声かけを頂き、2024年4月2日、熊本大学・桜十字・ヴォルターズの三者による包括的連携協定を締結しました。

『熊本大学 = 学術』『桜十字 = 医療』『ヴォルターズ = スポーツ』の連携・協働により、バスケットボールをはじめ、スポーツ全般の発展やスポーツ教育の向上を目指し、スポーツの魅力である楽しみや感動があふれる "Well-Being" な熊本の地域社会に貢献することを目的とした今回の連携協定。それに伴い、熊本大学と熊本ヴォルターズの間では体育館の貸借契約を締結。ヴォルターズの練習拠点としても利用できるよう今後リニューアル工事を行い、名称を『VOLTERS GX』として7月より利用開始の予定です。



VOLTERS GX ※画像はイメージです。



協力医療機関の医師紹介

地域のかかりつけ医を目指して

令和3年10月1日より、えず総合診療所に理事長・院長として就任いたしました。当診療所では、頭痛外来、認知症の相談・治療、排尿障害の相談、リハビリテーション、高血圧・糖尿病・高脂血症を中心とした生活習慣病の治療などを行っております。また、入院病床も19床有しております、肺炎などの呼吸器疾患、尿路感染症などの泌尿器疾患、脳血管・運動器・廃用・がんリハビリなど様々な疾患の入院相談もお受けしております。

その他には、令和5年12月より歯科を新設しました。外来診療はもとより在宅医療にも力を入れており、施設を主とした訪問診療・訪問歯科診療も行っております。これからも患者さまの日々の健康管理や継続的な治療を行い、最適な医療を提供したいと考えております。そのためには、他医療機関との連携は必須であり、今以上に桜十字病院と連携を強化し、地域のかかりつけ医を目指していきます。



院長
木村 浩 先生

医療法人社団 大樹会

えず総合診療所

〒862-0947 熊本市東区画図町重富510-1

＜診療科目＞

脳神経外科・内科・泌尿器科・消化器内科・呼吸器内科・リハビリテーション科・放射線科・歯科

＜診療時間＞

【月・火・木曜】午前 9:00~12:30 午後 2:00~8:00

【金曜】午前 9:00~12:30 午後 2:00~5:30

【水・土曜】午前 9:00~12:30

【休診】日曜日・祝日・年末年始



公式HP



📞 096-214-8787

地域連携室からのご案内

入院のご相談、お問い合わせにつきましては地域連携室の看護師、社会福祉士が対応いたします。当院地域連携室は地域の医療・福祉に関するあらゆる相談窓口として機能しております。どうぞお気軽にご相談ください。

— 入院までの流れ —

医療機関からのご紹介

患者さま・ご家族・ケアマネージャー等 からのご相談



1

地域連携室 入院・ご相談の受付



096-378-1120

2

診療情報提供書のご提出

現在の主治医から診療情報提出書（紹介状）を郵送または、FAXでご提出ください。



3

入院判定

多職種の職員による入院判定会にて当院でお引き受け可能かどうかを判定し、速やかにご紹介元にお返事いたします。

4

入院前面談・見学

クチタベ入院、透析、緩和ケアを希望の方や、それが必要だと判断された方には事前に面談を行います。
また、病院の見学対応も行っております。

5

ベッド調整

準備が出来ましたら地域連携室職員からご紹介元へご連絡いたします。



6

入院



地域とともに「生きるを満たす」

地域連携室では社会福祉士3名を新たに迎え、室長である副院長吉永を含め15名体制となりました。当院は多くの診療科・病床機能を持ち、患者さまも年齢・病状とも様々です。多様なニーズに対応するため、「生きるを満たす」行動指針に基づき、日々相談支援にあたっております。地域包括ケア時代において、地域の皆さまとの連携はより強固なものにしていく必要があると考えています。何でも相談できる地域連携室となり、地域の皆さまとの連携強化に努めてまいります。

地域連携室主任 萩川晃

[地域連携室の方針「生きるを満たす」とは]

- ① 退院の先にある「生活」を見据える
- ② 患者さまの権利を守り、自己決定を支え実現する
- ③ 自分らしい「生き方」を支える
- ④ 患者さまのストーリー（人生）に責任を持つ

医師紹介



脳神経外科
院長
倉津 純一



脳神経外科
院長補佐
三原 洋祐



脳神経外科
特別顧問
竹島 秀雄



脳神経外科
賀来 藍子



脳神経外科
北村 伊佐雄



呼吸器内科
副院長
地域連携室室長
吉永 健



呼吸器内科
青木 志保



呼吸器内科
安田 広樹



消化器内科
瀬上 一誠



内科
副院長
坂本 興美



内科
石原 まゆみ



腎臓内科
白石 直樹



腎臓内科
藤本 歌織



循環器内科
医局長
森上 靖洋



循環器内科
藤井 裕己



循環器内科
伊藤 彰彦



リウマチ
膠原病内科
院長補佐
中村 正



緩和ケア
吉本 美和



緩和ケア
今野 俊和



糖尿病内科
西田 佳子



外科
特別顧問
池田 信二



外科
院長補佐
蓮尾 友伸



外科
坂本 英世



外科
久米 修一



泌尿器科
上級顧問
吉田 正貴



リハビリ
テーション科
川崎 真



放射線科
古閑 幸則



消化器外科
佐野 收



整形外科
山内 達朗



小児科
中村 俊郎



訪問診療
吉田 大輔

病院概要

■ 診療科目19科目

内科	放射線科	リハビリテーション科
循環器内科	脳神経外科	麻酔科(蓮尾友伸・坂本英世)
呼吸器内科	脳神経内科	消化器外科
消化器内科	整形外科	皮膚科
リウマチ科	外科	精神科
糖尿病内科	小児科	
泌尿器科	小児外科	

■ 総病床数 630床

回復期リハビリテーション病棟 60床
地域包括ケア病棟 45床
障害者施設等一般病棟 163床
緩和ケア病棟 25床
特殊疾患病棟 60床
医療療養病棟(在宅復帰強化型) 277床

■ 施設の特徴

在宅療養後方支援病院

脳卒中リハビリセンター

呼吸器センター

血液浄化センター

リハビリテーションセンター

心大血管疾患リハビリテーション

脳血管疾患等リハビリテーション

運動器リハビリテーション

呼吸器リハビリテーション

